

1. 評価結果概要表

作成日 2008年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0891100018		
法人名	有限会社 バウム・ドルフ		
事業所名	グループホーム 舞夢		
所在地 (電話番号)	茨城県常総市古間木1054-4 (電話)0297-30-8382		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月15日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算	12.6人

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	55,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	400 円	} 500 円
	夕食	450 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	13名	男性	3名	女性	10名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	6	名	要介護4	4	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	87.6歳	最低	78歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	(財)筑波麓仁会 筑波学園病院 ・ 介護老人保健施設そよかぜ しば医院 秋葉歯科医院
---------	-----------------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念の一つでもある人間の尊厳を守り、人生の最後をその人らしく生活できる「高齢者ではなく大事にされる、必要とされる人」としての生活が維持できるよう職員教育や環境整備を非常に徹底されている。ホーム周囲の環境は、工業団地から少し離れ、広々とした敷地の外に田園風景が広がり、四季折々の草花を楽しんだり、動物の鳴き声が自然と聞こえてくる。昔懐かしい雰囲気が味わえる。廊下や居室は広々としており、地域の住民と深く接することができるようコミュニティーホールを設置するなど、ホーム独自の工夫が随所に見られ、暖かい雰囲気のある施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回外部評価初回のため特になし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が、管理者指導のもと外部評価の意義を理解し、全員で取り組まれていた。自己評価項目を、在職六ヶ月以上の職員全員がすべて記入し管理者がまとめるという、全員参加型の外部評価に取り組まれ、職員の士気の高さを見ることができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政、家族、職員などの参加を持って、ホーム改善の取り組み状況や方針の会議が行われている。特に力を入れていることとして、地域住人への介護予防の取り組みグループホームの啓発に努力されていた。議事録も保管され閲覧可能になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族のほとんどが、必ず一月に一回の面会におとずれる、そのため管理者や担当職員からその都度直接家族に近況を報告し意見や情報の収集を行っている。また実際に意見や苦情に対しては、行政指導のもと積極的に改善への努力をされている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは、住宅の極端に少ない自然に恵まれた環境のため地域連携に対し非常に努力されているが、確実な連携に至っていない。しかし管理者を含め職員が一丸となり地域での介護予防活動や、グループホーム及び認知症の啓発に取り組まれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人としての尊厳、これまでの生活の継続、本人の主体性を中心に具体的な理念が掲げられ、ホームでの高齢者の生活がのびのびとその人らしく生活できるよう考えられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、管理者指導のもと理念の啓発とともに、ケアの提供に心がけている。管理者は、職務中に職員に質問したり、ケアの方向性を修正するなど管理者を中心とした理念の啓発に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街からは、少し離れた自然の豊かな場所にあり、地域との交流が難しい中、自治会活動に参加したり、自治会の公民館で地域住民を中心とした介護予防の講習会などを開催するなど努力されており今後も継続し地域交流をさらに強固なものとなるよう努力されたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を管理者指導のもと、職員が理解し職員全体で取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、介護保険課、利用者家族の参加の下実施されている。ホーム内の活動や近況報告をともに話し合っている。		

茨城県 グループホーム舞夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が市に直接出向き相談しあっている。また何か問題のある場合は、直接行政に行き連携して取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態や状況の変化に対しては、即時電話連絡をしている。また面会時には、管理者や職員が直接家族に報告し意見などを聞き入れている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年に二回開催し、その都度家族の意見を求め、利用者の以前の状況や生活史などを直接聞き入れ利用者のケアの向上とともに、意見の反映に努力されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホームの理念に沿わず退職する職員が多かったが、管理者の面接や外部研修などの充実化を図り職員の定着を図っている。また職員専用の休憩室を造り福利厚生にも努力されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修や伝達研修など積極的に行っている。外部研修の参加も多く、研修には日勤扱いとし移動も公用車などを利用させるなど職員を育てる取り組みに力を入れている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>常総市の6ホームとの連携を図るため、市で集まる機会を作ろうとしているが実現に至っていない。しかし管理者間での同業者交流は、積極的に行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験入居が可能となっており、無料の宿泊部屋で体験することができるなど、なじみながら自然に入居できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活史を積極的に取り入れ、利用者の智恵を教えてもらったりという場が多く常に主は利用者であるという意識でケアを提供されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	早朝より畑仕事を行い、朝食をとるなどその人らしい生活をホームに来て実施できるよう利用者の思いや意向を重視している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設ケアマネジャーがこれまでの情報をもとに計画立案し家族の指示のもとその場で意見をいただき計画している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな課題や期間に応じ見直しを行っているが、記録に十分に反映されていない。	○	新たな課題や問題点などの把握をモニタリングシートなどを積極的に利用し、利用者家族等にも理解しやすいように記録保存に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族で宿泊できるよう和室を別に設置したり、コミュニティホールを造り地域の住人に利用してもらうなどホーム独自の工夫がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する、かかりつけ医の受診が基本となっているが、職員配置の状況もあり送迎に関しては家族に行ってもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化終末期への対応は、常勤看護師がおり医療依存度が高度でも受け入れが可能になっている。	○	重度化、終末期に関しても積極的に受け入れを行っている。今後利用者の高齢化も考慮し需要の拡大が考慮される中、同意書など家族の意識の確認などに取り組まれていただきたい。(現在は日々の記録に家族の意向が記載されている。)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の保管の徹底およびカルテの表紙には、外部者が分かりにくいようイニシャル表示にし、各居室にも名前などの記載をしないなど、利用者のプライバシー保護に徹底した取り組みがある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	美容室に月に二回通ったり、早朝の畑仕事、入浴時間の配慮などその人らしく生活するための工夫が随所に見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備段階より、利用者の特技や技を生かし積極的に役割を持っていただきながら食事が提供されている。また利用者の混乱を避けるよう職員が細部に配慮し自然に食事にとけ込み利用者が自分のペースで食事が取れるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人数や職員配置にもよるがなるべくその人の希望に添った入浴ができるよう、夜間の入浴も可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本状況一覧というホーム独自のシートで利用者の状況を職員間で一定に把握し役割や楽しみごとの提供を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出はこまめに行い、スーパーなどにも利用者の希望に添った買い物ができるよう配慮している。また地域の観光なども積極的に取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、施錠無く開放感のあるホームである。夜間ウッドデッキに出る際など赤外線センサーが危険防止の為夜間のみ作動するようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の防災訓練を地域の消防署の協力の下、利用者とともに全員参加で実施している。	○	大規模災害などに備え、備蓄品の確保を考慮されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の管理は数値化され細かく把握されている。看護師管理の下、心疾患利用者などには、こまめに水分管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、利用者が自然と集まれる暖かな雰囲気に構成され、リアリティーや季節感が随所に感じられるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者馴染みのものが設置され、家族の協力もありその人らしい空間が作られている。		